

どうぶつこうえん ニュース



No.72

2009

夏

ヒワコンゴウインコ



2009年3月25日、ヒワコンゴウインコのヒナ1羽(性別不明)が孵化(ふか)しました。ヒワコンゴウインコの産卵シーズンは2月から4月頃で、孵化日数は28～32日です。当園ではオス、メス各1羽と一緒に飼育しており、昨年も卵を産んでいたのですが、巣箱を設置していなかったため、孵卵器に入れても卵は孵化しませんでした。

そこで、幅47cm×奥行き43cm×高さ90cm、重さ30kgの巣箱を新しく作成し、11月に設置したのですが、2羽のヒワコンゴウインコは見慣れない巨大な物体と常に距離をとり、全く中になど入ってはくれません。そこか

ら、巣箱の上に大好物のピーナツを置くなど、必死の「巣箱に入ってもらおう作戦」を行ったところ作戦開始から40日後、やっとオスのみ、短時間であれば巣箱に入れるようになりました。1月中旬にはメスも入れるようになり、さらに、2羽で飼育係に向かって威嚇(いかく)行動を取るようになりました。威嚇は特に飼育係が巣箱に近づいた際に行われ、実際に頭をつつくなどの攻撃もありましたがこれは繁殖の予兆を示し、痛いけれども嬉しい行動でした。そして2月21日に、木くずを敷いた巣箱内に3つの卵が確認できました。2卵は残念ながら孵化しませんでした。3月25日に1羽のヒナが孵化しました。

コンゴウインコは、子育てをオスとメスで協力して行います。2羽にとって初めての繁殖ですが、ヒナを守ろうとする意志は非常に強く、気をつけないと飼育係にも飛びかかってきます。産まれた直後は赤裸で目も開いておらず、非常に頼りなげなヒナですが、孵化後2週間で羽の元になる羽軸が生え始め、4週間で目が開き、1か月を過ぎた頃には色とりどりの羽毛が生え始めました。ヒナが巣箱から出るのはまだ先ですが、このヒワコンゴウインコ達の初めての子育てを、温かく見守ってください。

宮崎 沙都(Sato Miyazaki)

目次

CONTENTS

表紙【オオカンガルー】	①
トピックス【ヒワコンゴウインコ】	②
モウコノウマ	③
アシカのエサやり体験	③
ちば ZOOフェスタ	④
動物公園の植物	⑥
飼育よもやま話	⑥
動物公園日誌から【'09.1/1～'09.3/31】	⑦
サポーター会員募集のお知らせ	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 オオカンガルー

まず、分類の話になりますが、時代の流れとともに分類に対する見解も変化しています。オオカンガルーについても従来から現在まで、有袋目に属するというのが主流ですが、IUCN・CITESでは、有袋目を2つに分けフクロネズミ目とカンガルー目としています。さらに、有袋目をフクロネズミ目と言い換えている文献もあります。当園では、さてどれを採用するかですが、現在検討中で、有袋目とカンガルー目の併記もありかなと考えています。

有袋類と有胎盤類の大きな違いは、胎盤があるかないかです。オオカンガルーは、胎盤がないので子宮で仔に十分な栄養が与えられません、そこで非常に未熟な状態(体長2cm、体重1g)で仔を産み、腹にある育児嚢という袋で母乳を与えます。妊娠期間は30日間で、320日ほど育児嚢の中にとどまります。

小林 正典(Masanori Kobayashi)

撮影:宮川 千尋(MIYAKAWA CHIHIRO)

動物飼育数

平成21年3月末現在の飼育数

哺乳類 66種 433点

両生類 1種 2点

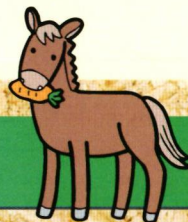
鳥類 71種 305点

魚類 1種 2点

爬虫類 6種 30点

総計 145種 772点

モウコノウマ



新人飼育係の私がモウコノウマの担当になって1年が過ぎました。この1年を振り返りつつ、モウコノウマについてご紹介したいと思います。

最初、担当動物がモウコノウマと聞いたときうれしかったのを思い出します。なぜなら、モウコノウマは貴重なストーリーあふれる動物だからです。モウコノウマを漢字で書きますと、「蒙古の馬」ではなく、「蒙古野馬」となります。「ノウマ」つまり野生の馬です。現存する唯一の野生の馬です。

現在の家畜馬の祖先はモウコノウマではなく、ターバンという野生馬だと考えられていますが、このターバンという野生馬は絶滅してしまいました。そしてモウコノウマも1969年より野生から姿を消してしまいました。その原因は、狩猟や生息地の破壊、家畜馬との交雑などです。しかし、1899年からヨーロッパの動物園で飼育されてきたため、種としての絶滅は免れました。その後、国際的な血統管理の下で繁殖に努めたため、飼育下での数は2000頭以上に回復しました。そして、1992年から動物園で増えたモウコノウマをモンゴルの保護区などに野生復帰させています。現在、300頭以上のモウコノウマが野生に生息しています。野生復帰については、最近、日本でもコウノトリやトキで野生復帰が試みられているので、身近な話題にもなりつつあります。

そんなモウコノウマですが、展示場でお客さんの声を聞きますと、よく「お馬さん」とだけ言われてしまっています。そこで、モウコノウマについて来園者の方によく知っていただきたいと思い、ガイドを兼ねた「モウコノウマの食餌」を始めることにしました。

当園ではオスとメス一頭ずつ飼育しています。オスは「トメキチ」18才、メスは「クリス」9才です。最初は二頭のことをよくわかっていませんでしたが、徐々にですがわかるようになりました。クリスはとても食いしん坊な「じゃじゃ馬」なので、よくトメキチを追っ払って、自分だけ餌を食べようとしています。トメキチはのんびりした性格なので、展示場でうたた寝していることもあります。そんな二頭の性格や関係を交えつつ、モウコノウマが野生の馬であること、動物園には絶滅の危機にある野生動物を保護する役割があることなどを来園者の方にお伝えしています。このときにはモウコノウマの顔を近くで見ることができますので、ぜひ見にいらしてください。

堀 泰洋 (Yasuhiro Hori)



アシカのエサやりボックスの新設



当園では二次開園以来、カリフォルニアアシカを飼育していますが、水族館のようにアシカショーを行っているわけではありません。

普段は来園者にただ見てもらうだけ。給餌(エサ)の時間だけが飼育係と来園者がアシカの前に会話ができる貴重な時間になっていました。しかし、池を挟んでの会話のために、お互いに遠慮がありました。

そこで、給餌時間に来園者側に踏み台を持ち出しその上で、解説と給餌をするというイベントを始めました。

「アシカとアザラシのちがい」、「エサとなる魚の食べ方」、「当園のアシカの紹介」など、給餌しながらの解説。

飼育係との距離がなくなり、来園者の足も今まで以上に止まり反応は上々。ついでに来園者自らエサを与えてもらい、アシカをじっくりと観察してもらうことに。

これには子供たちは大喜び、予想外に大人は子供以上に大喜び。中には嫌がる子供を説得した方も。

来園者の評判が良いことを利用し、わがままを言い、池の隣まで入れるようにフェンスの改修をしてもらいました。

わかりやすく、インパクトのある名前として、担当者が勝手に「エサやりボックス」と名付けました。

ただし、エサをあげることが目的ではないので、エサを食べるところまでの観察、ついでにエサの魚の名前を知ってもらい、普段は手袋をつけて参加してもらっているなかで、たまに

は素手で。この時には、魚の感触、においなども感じてもらっています。

給餌は、午前と午後の2回、時間は、仕事の都合上確定することができず、来園者には参加しづらいイベントになってしまっています。ただ、実施10分前には園内放送をしますので、アシカ舎前に集合してください。

この他さまざまなイベントも、園内放送でお知らせしておりますので、ぜひ参加してみませんか。

伴野修一 (Shuichi Banno)



楽しかったね、 ちばZOOフェスタ 「みんなであ・そ・ぼ」

平成21年3月18日から22日までの5日間、全園あがての「ちばZOOフェスタ：みんなであ・そ・ぼ」が開催されました。

この企画は、2年前からはじまった「来園者調査」の結果を受けて、当園と（財）千葉市動物公園協会が協力して実施したものです。また、実施にあたり、多くの動物公園協会ボランティアのみなさんにもお手伝いいただきました。

まず、来園者調査の結果から、全入園者の約8割が、幼児から小学生のお子さんを含む家族連れでの来園形態であること、そして1年に1度以上ご来園いただいているお客様は64%と、リピーターの方が3分の2ということがわかりました。全体の満足度については、「とても満足」が46%、「まあ満足」が51%と比較的高いものの、リピーターの家族連れの多くは、「親子でいっしょに何かができるような企画」をより強く望んでいること、また、大人のリピーターの方の中には、動物との静かなふれあい体験を求めている方が多いなど、年齢によって動物園に期待することがやや異なることもわかりました。



④「秋に採れたどんぐりを素材に、
かわいい鳥をつくりました」



⑥「親子で楽しみながらおめん作りやぬり絵をしました」

さらに、リピーターの方よりも、まったく初めて当園を訪れたという方のほうが、動物への餌やり体験やバックヤードツアーへの強い参加希望をもっているということもわかりました。

これらの結果を受けて、今回のフェスタでは、サブタイトルを「いっしょにあ・そ・ぼ」としましたが、この「いっしょに」には、①動物たちといっしょに、②家族同士でいっしょに、③当園の職員といっしょに、「楽しく過ごす」という3つの意味を表しました。そして、先の調査結果を参考に、どうしたらこの3つが同時に実現できるか考えました。その結果、「どんぐりで作って遊ぼう(写真④) クラフト教室(写真⑥)：職員やボランティアの助けを借りて、大人と子どもでいっしょに何か

を作れる体験を用意する」「エンリッチメントって何？：なかなか外から見ていただけではわからない、動物たちの飼育環境をよくするための工夫を紹介する」「エコ・リサイクル：動物の骨格標本から食べるための工夫(写真⑦)を紹介したり、ゾウの糞から紙が作れる様子を実物で紹介する」などが企画されました。また、この期間の後半、週末には初めてご来園の方も多いと予想されたので、「動物たちに大接近：日ごろは見られないバックヤードを飼育係のガイドで見学、そして餌やり体験(写真⑧)」「飼育係りと仲良くなろう(写真⑨)：飼育係の出題するい



⑩「歯のつくりをよく見てみてね。
キリンとライオンの頭骨で、食べ方しらべ」

いろいろなクイズに挑戦してもらう」などを企画しました。いずれの企画も、どのようなスタッフやボランティアがこの動物公園にいるのか、それをよく知っていただき、顔見知りになることを目指しました。この、フェイス・トゥ・フェイスの関係づくりがこれからの動物公園運営には大事になると考えたからです。



⑤「たいせつなヒツジからの贈り物。こんなふうに毛糸になるんだね」

このほかフェスタでは、記念品やアニマルバルーンの配布、地元のボランティアバンドによる演奏会や記念

写真の撮影サービスをはじめ、クイズラリー、お絵かきや動物へのお手紙コーナーの設置、ドリームワールド内でアニメ・キャラクターショーを行うなど、さまざまな年齢層の方に思い出をつくってもらえるような、楽しい取り組みもたくさん行いました。

いつでもどこでも、どんなご意見でもいただけるような関係のもとで、ともに楽しい動物公園作りをしていくために、お客様といっしょに考え、実践していけるような動物公園であり続けたいと考えています。

このフェスタ参加者にも簡単なアンケートにご協力いただきましたので、最後に

それをご紹介します。何らかのイベントに参加した方は、全体来園者に比べて満足度がかなり高くなったことがわかりました(図1,2)。しかしながら、フェスタがあることをあらかじめ知っていた方は少なく(図3)、広報・宣伝にはもっと工夫が求められていることもわかりました。

今年も秋にフェスタが計画されています。お客様に職員の顔が見え、みんながもっと仲良くなれるようなイベントをまた企画していきたいと思っています。どうぞご期待を!

並木美砂子(Misako Namiki)

④「どの動物にエサをあげられるかな? くじびき中」



フェスタに合わせて作ったゾウ舎前の看板



みなさんの楽しい思い出作りを手助けするボランティアさんの紹介

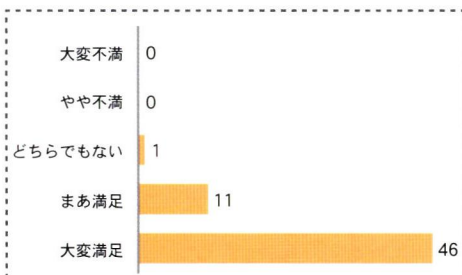


図1 何らかのフェスタイベントに参加した人の満足度 (3月18,19,20日)

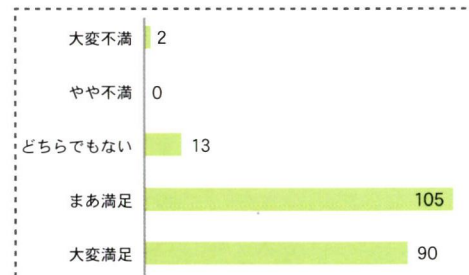


図2 来園者全体の満足度 (3月21,22日)

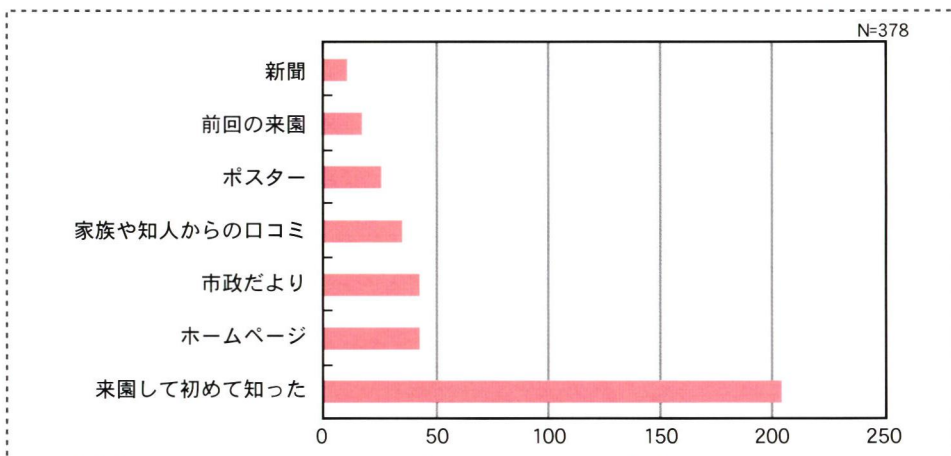


図3 フェスタの認知媒体 (何によってこのイベントを知ったか)



動物公園の植物

番外編 タケノコ



この4月に人事異動で久しぶりに動物公園に配属になり、早々に、ゴリラとチンパンジーから相談を受けた。「レッサーパンダがタケノコを分けてくれない。」

変な場面を想像しないでください。数年前にレッサーパンダのエサ用のササを採る為にバックヤードに竹林を開墾しましたが、そこで生えるタケノコを類人猿に食べさせたいがパンダ用のササを育てる為に「タケノコ採取禁止」の看板が設置されているので手が出せない。何とか類人猿にタケノコを食べさせてやりたいという類人猿の担当者からの相談がこの話。特にゴリラはタケノコが大好きなのだそうだ。

実はこの開墾と看板は以前の私の仕業。竹を育てる為に当時数年間はパンダ用の伐採も禁止したほど。その後パンダ用に解禁してからも伐採制限を設けていました。本当は計画的にタケノコや古い竹を選別して刈り取って行かないとちゃんとした竹林管理はできません。当時は手っ取り早く「採取禁止」としたのですが、どうやらその後もそのままとなっていたようです。

さて、それでは冒頭のゴリラとパンダの仲裁をどうしたものか。検討の結果「竹林限界ライン」を設けることとしました。これ以上竹林が広がっても周辺の樹木や建造物にも影響がでてくる恐れがあります。「このラインを越えて出たタケノコはすべて類人猿担当者で必ず採取してください」これで解決としました。植物担当としては竹林拡大防止の仕事もしてもらえて一石二鳥。(実はこのことの方が動機が強かった?)

来春はゴリラが大きくて立派なタケノコを抱えて食べている姿が見られれば、それは「100パーセント園内産タケノコ使用」です。

清田義昭(Yoshiaki Kiyota)



飼育よもやま話

グレビーシマウマの繁殖協力

グレビーシマウマ(♂)のリョウは、当園で1998年8月1日に生まれました。生まれて4日後の8月5日に両前足の膝にケガをしてしまい、消毒薬や抗生剤を与えて治療をして治癒しましたが、2002年2月にまた、前足の跛行(はこう=片足を引いて歩くこと)が目立ち始めてしまい、消炎剤をエサの青草にかけて食べさせる日々が数日続きました。その後も、胸から膿が出たり、右前足が跛行になったりと、飼育係を心配させることが続いてしまう個体でした。2003年11月12日から唇が神経症状により、ゆがんでしまい、このままでは死んでしまうのではと思われました。このときにはリョウの父親のユウは死亡していたため、当時の担当飼育係は、とても心配したようでしたが獣医さんの治療の甲斐があって、1週間ぐらいで治癒することができました。2005年8月からは、左前足の蹄の形が悪くなってきて左前足の地面のつき方が普通のシマウマと違うつき方をするようになってしまい、展示場に出していても、他のシマウマと走り回ったり、雨が降っていたりすると、すぐに左前足をひきずる様な歩き方をしてしまいお客様から、「足の悪いシマウマがいてかわいそう」と指摘されることもありました。このような状態でしたので子供をつくることは出来ないのではとあきらめていましたが、2007年1月29日 メグミ(♀)との間にキサラギ(♂)を授かることができました。その後も、左前足の跛行をたびたび起こしてしまいますが、投薬により跛行の状態を治していました。こんな様子でしたので他の動物園に行くことは出来ないのではと思っていましたが、京都市動物園よりリョウを繁殖のためにほしいと打診があり、足の状態が悪いことを伝えましたが繁殖のために移動してほしいとのことで、繁殖協力のため、2009年3月23日に京都市に出発しました。京都でたくさんのおとうさんになってくれることを期待しています。

グレビーシマウマは、ケニア北部からエチオピアに生息し、現存するシマウマの中で、最も美しいシマウマといわれ、他のシマウマに比べて縞模様が細かくハッキリしているのが特徴です。



鈴木 克典(Katsunori Suzuki)



動物公園日誌から

'09年1月1日～'09年3月31日

- 1月1日 ナマケモノ(仔)、朝、衰弱がみられる。抗生剤投与、補液等を行う。
イヌワシ(雄)、元気消失のため馴化施設へ移動。抗生剤等を投与する。
- 1月3日 ナマケモノ(仔)、だいぶ良くなってきた様子。
- 1月4日 グレビーシマウマ、リョウ(雄)とシズカ(雌)の交尾確認。
ケープペンギン、巣箱より雛の泣き声がある。
- 1月6日 ナマケモノ(仔)、元気があり、ほぼ元の様子に戻る。
アジアゾウ(雌)、右前肢が痛いのか右前肢を上げていることが多い。
イヌワシ(雄)、死亡。
- 1月7日 クロザル、マンドリル、本日より5日間駆虫薬を投与する。
ニワトリ(小国4羽)、鶏痘ワクチン接種。
- 1月8日 ケープペンギン、二つの巣箱から雛の声がある。
- 1月9日 マンドリル、雌同士を同居させる。
ニシゴリラ(ケンタ、ローラ)、本日より一般公開する。
アジアゾウ(雌)、消炎剤投与。
- 1月11日 ケヅメリクガメ(No.3)、一時間温水浴をさせる。温水中で尿酸塩排泄。
- 1月13日 フサオマキザル(母子)、退院し、群れに戻す。トラブルは無し。
アフリカハゲコウ、交尾行動がみられる。
- 1月16日 トナカイ(母)、袋角がむけはじめる。出血はみられない。
- 1月18日 マンドリル(雄)、雌のNo.9と交尾。
ヒワコンゴウインコ、攻撃性が強まり、巣箱を覗くとつついてくる。
- 1月19日 オオカンガルー、雌(ナミ)が発情し、雄(エイイチ)が一日中追尾し交尾。
ヒワコンゴウインコ、2羽で巣箱に入る。
- 1月21日 ミーアキャット(2頭)、東武動物公園へ搬出。
- 1月22日 動物園教育事業-参加型研修会開催(23日まで)、参加者21園、24名。
アシカ池、給餌用柵新設。
- 1月23日 マンドリル、雌同士を終日同居させる(夜間も)。
- 1月25日 マンドリル(雄:新雌)、シュートの上下で見合いをする。
- 1月26日 エリマキキツネザル、予備室と展示で雌を交代する。
- 1月28日 カリフォルニアアシカ、新給餌場より餌やりを行う。以前より水面に近いため幼児も見やすくなる。
- 1月29日 エリマキキツネザル、雌が雄を追い回し、噛みつくこともある。
キンカジュウ、繁殖。
シタツンガ(雄1頭)、神戸市王子動物園へ搬出。
- 1月30日 コシジロヤマドリ(雌2羽)、東京都井の頭文化園より搬入。
- 2月1日 園内バードウォッチング開催。
- 2月2日 ショウガラゴ(No.100)、性別判定し雄と確認。
エリマキキツネザル、雄(No.33)と雌(No.41)を初めて一緒に屋外へ放飼する。
トナカイ(仔、ノゾミ)、袋角がむけはじめる。
アジアゾウ、右前肢の裏に抗生物質を塗布。
- 2月3日 ケープペンギン、片方の雛がもう一方の巣箱に移動していた。
エジプトハゲワシ、ダチョウの卵割を実施する。
- 2月4日 **ナマケモノ(仔)、本日より展示再開。**
- 2月6日 ケヅメリクガメ(No.2)、左前肢のウロコがはがれ出血する。
- 2月7日 キンカジュウ、夕方、仔の声が聞こえる。
- 2月8日 テナガザル、このところ追尾行動が顕著だが、交尾は確認できていない。
- 2月9日 パタスザル(雌)、退院。
- 2月11日 フタコブラクダ(雄)、フェンスと横棒の間に左前肢の蹄の先を入れてしまい負傷する。
- 2月12日 **シタツンガ、雌1頭繁殖。**
- 2月14日 キンカジュウ、夕方、仔をくわえて歩きまわる。
- 2月17日 ホンドザル、雌同士の闘争がみられる。
ヤギ(シュガー)、右角折れる。
コシジロヤマドリ(雌2羽)、検疫明けでキジ舎へ。
- 2月18日 コシジロヤマドリ、朝落ちて着いていた。



- 2月19日 プレーリードッグ、夕方、巣穴でキャンキャンと鳴き声が続く。交尾をしていた様子。
- 2月21日 ヒワコンゴウインコ、巣箱から出たがらないので確認すると巣箱に卵があった(日付を記入する)。
- 2月22日 キングペンギン、ケープペンギン、採食量落ちる。換羽が近いのか。
- 2月24日 シタツンガ(親子)、午前中、通路に放飼する。
- 2月27日 テナガザル、室内の止まり木がアンカーごと外れる。雌が左足首あたりを負傷、腫れて、熱感がある。
パタスザル(雌:シュル)、しばらく前から跛行していたため、捕獲しレントゲン撮影。骨の異常は見られず。
キングペンギン(黄)、換羽始まる。
- 2月28日 オオカンガルー、雄(エイイチ)が雌(ナミ)を追尾し交尾。雄(キチ)、外耳の治療を行う。
テナガザル(雌)、昨日より左足首の腫れや熱感治まる。
マレーバク、バックヤードツアーを行う。
- 3月1日 千葉大学教育学部付属特別支援学校より巣箱等の寄贈を受ける。
シタツンガ(雄1頭)、繁殖。
- 3月2日 アカツクシガモ(雌2羽)、搬入。
- 3月4日 マンドリル、日中全頭同居する。
- 3月7日 アフリカハゲコウ、暖かなため12時より16時まで展示する。
- 3月8日 アメリカビーバー、巣作りをしている様子なのでドームの清掃を見合わせる。
大人の飼育体験実施。
- 3月9日 ゴリラ、ケンタとローラ来園後、最初のペアリングを行う(10時から11時40分)。ケンタが少しローラに近づくがローラは逃げるように離れる。その後落ち着く。
ルリコシボタンインコ(1羽)、死亡(出血性腸炎)。
- 3月12日 ケープペンギン(雛1羽)、池でよく泳ぐ。
- 3月13日 アビシニアコロブス(キクウ、雄)、退院。
- 3月15日 ワンポイントウォッチング(ウシ)。
- 3月16日 アカツクシガモ(雌2羽)、検疫明けで水禽池で展示する。
- 3月18日 ちばZOOフェスタ開催(3月22日まで)
ワタボウシパンシェ(雌1)、鹿児島市平川動物公園へ搬入。
パタスザル(雄1)、鹿児島市平川動物公園より搬入。
- 3月19日 シタツンガ、雄(No6)が雌(No3)に攻撃され左わき腹を切る。
傷が大きいため鎮静下で縫合する。
- 3月21日 シロエリハゲワシ、雌同士が追い合っているのがみられた。
- 3月23日 グレビーシマウマ(雄・リョウ)、京都市動物園へ搬入。
ハウオウジャク(雄1、雌1)、搬入。
- 3月25日 ヒワコンゴウインコ(1羽)、孵化。
- 3月27日 アメリカビーバー、妊娠の可能性が高いため室内の池の水を抜きステンレス製バットで水を与える。
- 3月30日 **ワオキツネザル(1頭)、繁殖。**
- 3月31日 オウカンエボシドリ、オニオオハシに攻撃され死亡。



左が2月12日、右が3月1日生まれ



編集後記

3月には、当園で初めての試みとして、ちばZOOフェスタを開催しましたが、あいにくの天候で多くの方々に楽しんでもいただけませんでした。幸いGWには、4月当初の脱走騒動でお騒がせの「アフリカハゲコウ」と天候が昨年よりは良かったためか、多くの方々にご来園いただきました。ありがとうございました。今年も、園内での新しい命の誕生があり、皆さまをお待ちしております。ぜひ緑に囲まれた公園内散策をお楽しみ下さい。

どうぶつこうえんニュース編集委員



動物取扱業者標識	
①氏名又は名称	千葉市
②事業所の名称	千葉市動物公園
③事業所の所在地	千葉市若葉区源町280
④動物取扱業の種別	展 示
⑤登 録 番 号	第50015号
⑥登 録 年 月 日	平成19年7月30日
⑦有効期間の末日	平成24年7月29日
⑧動物取扱責任者	飼育課長 小林正典

千葉市動物公園 **サポーター一会員募集**
Chiba Zoological Park

(財)千葉市動物公園協会では、動物に関する知識と動物愛護の精神を普及することを目的に「**サポーター会員**」を募集いたします

年会費(入会日～翌年入会月末)	個人会員	10 千円
	法人会員	10 1万円

オリジナルグッズプレゼント♪ サポートースデイに無料ご招待

お問い合わせは**TEL043-252-1111**

法人サポーター会員（順不同）

- (株)動物公園協力会
- (株)和光物産商会
- (有)カンダ事務機
- (株)新星医薬商事
- 千葉商工会議所
- (財)千葉市国際交流協会
- ジェノスグループ(株)
- (株)ニッセイアド
- 千葉県米穀(株)
- 大西総業(株)
- (株)さわらび
- 利根コカコーラボトリング(株)
- 千葉都市モノレール(株)
- 関東フローズン(株)
- (社)千葉市観光協会

Information

平成21年6～8月の催し物一覧

6月14日(日)	ファミリーシアター
6月20日(土)	Zooキッズデー(事前申込制)
6月28日(日)	ワンポイントウォッチング(タンチョウ)
7月 1日～31日	動物愛護標語募集
7月22・23・24日	サマースクール(事前申込制)
8月 9・16日(日)	夏休み講演会
8月 22日(土)	Zooキッズデー(事前申込制)

詳しくは <http://www.chibazoo.net/>でどうぞ。